

## 学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2024年度入学者向けの科目一覧です。

受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。

※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名	配当回生	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
法学部	社会に生きる法	1回生	漠然と「大学生は学ぶものだ」という前提で、単に法学部だから社会の中の個別の「法」の運用を知るのではなく、日々社会における様々な問題に対して、どう直面し、どう解決しようとしているのか、ゲストスピーカーの「知識と経験に基づく批判的思考・論理的思考の実際」を知る。そのことから、今後、法学部での学生生活における学びを経た自分が、あらゆる現場で「社会を形作る」ことにどう寄与できるのかを垣間見て、今後の自分なりの法学部における学び方を、具体的かつ自律的に構想する。
法学部	法曹フィールドワーク演習	2回生 (司法特修)	将来、法曹（裁判官・検察官・弁護士）となることを志す受講者向けの講座である。受講者が法曹三者あるいは当事者本人・証人等の役割を担当して模擬裁判を行うことを通じて、法律と裁判制度の社会的な存在意義を感得し、訴訟実務の基本を理解することを目的とする。受講生は、各30名の2クラスに分け、民事・刑事の模擬裁判を行う。
法学部	法務実習	2回生	2回生後期に法律事務所・司法書士事務所などで実習を行う法学部独自のインターンシップ科目である。弁護士・司法書士等の法律専門職の仕事を現場で見聞することを通じて、法と現実との関わりや司法の現場が抱えている問題を学び、将来の進路の動機付けを図る。48時間以上の実習、事前・事後講義、実習レポートを提出することにより単位認定される。
法学部	公務行政セミナー	2回生 (公務行政特修)	公務行政特修のキャリア形成科目である。大学院公務研究科との連携をはかり、官公庁勤務の人々を招き実務現場の話や聞くことなどを通じて、公務員の職務と活動に関する、政治行政学・法学両面からの基本的な理解を獲得し、公務行政特修の学生の進路目標に対する動機付けを強化することをめざす。
法学部	公共政策実習	2回生以上 (公務行政特修)	地方自治体や公共機関などの公務の現場で、実際の仕事を体験することを通じて、現場が抱えている問題や、学問と行政・公共機関との関わりを学び、その後の学習や進路への目的意識の深化や進路開拓への発展を図る、法学部独自のインターンシップ科目である。48時間以上の実習、事前・事後講義、実習報告会への参加、公共政策実習レポートを提出することにより単位認定される。
産業社会学部	キャリア形成特殊講義 (キャリア探偵団)	2回生以上	さまざまな業種・職種の職業理解を通じて、自己の個性や職業適性について考え、将来を考えた大学での学びのモチベーションづくりや自律的な進路選択の一助とする。企業等からの課題をベースとした産学連携型の課題解決学習(project based learning)に準じた授業となる。具体的には、①外部講師による講演等によりキャリアを考えるきっかけを与える（導入）。②企業から出された課題に対して少人数のグループごとに解答を探し出し、プレゼンテーションするPBL（課題解決型）作業を行う。
産業社会学部	キャリア形成特殊講義 (若者支援（ユースサービス）の場での働き方を学ぶ)	2回生以上	学校とは違う、若者の教育・支援と関わる営みについて学びます。この授業では、若者と関わる現場で働く多様なスタッフを招いてお話を聞き、実践現場を訪問しながら、若者の成長支援という“新しい仕事”のあり方を学ぶとともに、そのための基盤となるユースワーク（ユースサービス）や「若者学」について受講の皆さんとともに考えていきます。
国際関係学部	IR18-FJ301キャリア・デザイン	3回生	今日の大学生が直面する、いわゆる「就活」問題に対して、これを社会的な広がりの中で、卒業後の人生全体を見渡したものとして「デザインする」ことを課題として取り扱う。この科目では、講義形式およびグループ・ワークにより、今日の若者がおかれている社会状況、女性労働者が被る種々の差別などについて理解を深め、ミスマッチのない形で積極的な就職活動を行っていけるようにする。
国際関係学部	IR18-FJ204 プロフェッショナル・ワークショップ IR18-FE 202 Professional Workshop	2、3回生	国際公務、メディア、民間企業といった各業種に関する専門的なクラスを設け、当該分野を志望する学生に対して、専門的な知識や情報を提示するとともに、キャリア・パスのために必要な実践的で具体的なノウハウを教授する。この科目では、それぞれの分野に精通したゲスト講師の講演や、当該分野で実務経験を有する教員による指導を踏まえて、学生の主体的な検討と報告を中心に行われる。この科目により、自らの卒業後のキャリアについて考える機会を提供する。

## 学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2024年度入学者向けの科目一覧です。

受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。

※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名	配当回生	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
国際関係学部	IR18 - DJ103 国際連合入門 IR18 - AE110 Introduction to the United Nations	1回生以上	国連の目的、創設の経緯、原則を理解したうえで、国連の活動に関するアクターと組織（加盟国、主要機関、専門機関、プログラム、基金）を把握する。次に、国連の活動をその目的から3つに分け、平和の創造・維持・構築、人権促進と人道支援、並びに経済社会活動の順にその活動内容を考察していく。授業全体を通して、組織としての国連のみならず、国連の活動に関与してきた人々（国際公務員を含む）にもスポットライトを当て、受講生がより臨場感を伴って国連の活動を理解できるように講義を進める。学期中にゲスト講師を招いて「国連の展望と課題」についてお話しいただく予定。
国際関係学部	IR18-EDJ201 国際公務セミナー	2回生	<国際関係学専攻で2回生進級時に国際公務プログラムを選択した学生のみ履修可能> 春学期は「国際公務セミナー」、秋学期は「国際関係学セミナー（国際公務クラス）」を開講。1年間、2科目での小集団の授業を通じて、日本の行政システムや国際機関のガバナンス、外交、安全保障、経済、憲法など、多様な課題を検討し、行政における現状と課題を理解します。
国際関係学部	IR18-DJ208 国際関係学セミナー（国際公務クラス）	2回生	
国際関係学部	IR18 - DE106 Special Lecture (Foundation Course) International Organizations Training Program in Bangkok	1回生以上	英語基準で夏に行われる短期留学プログラム。本プログラム（タイ・バンコク国際機関研修）は、将来、国際機関でキャリアを積んでいきたいと考えている学生を対象とし、バンコクで活動するいくつかの国際機関、及び国連と連携して活動を行っているタイ政府機関や大学を訪問して、現地での活動を視察するとともに、各機関の職員とのブリーフィング・セッションやワークショップの機会を提供するものである。これによって参加学生たちのモチベーションを高め、国際機関就職への計画を具体化する一助にしてもらうことを目的とする。
文学部	リテラシー入門	1回生	授業は、ライティングスキル・インフォメーションスキル・キャリアスキル・スケジュールメントスキルの4要素から成り立っています。リテラシーとはもともと文字を読み書きする能力のことでしたが、今では様々な情報を理解して、自分とまわりの人々、つまり社会とのコミュニケーションに役立てる能力を幅広く指す言葉になったものです。学域の教員や先輩からのキャリア講義を1コマ開講し、文学部の学びとキャリア形成との関わりについて学びます。
文学部	人文学特別研修	2回生以上	「大学での学びと関連のあるプログラムの開発」、「単なる就業体験ではなくインターンシップを通じて何かを創り上げ達成感を得ることができるプログラムの開発」という2つの特色を持った文学部独自のインターンシップ科目。文学部で募集するインターンシップは、文学部の教学内容と密接に関連したものが中心となり、専攻での学びの成果を活かしながら、実社会での職業体験に触れ、インターンシップ体験を通じて、単なる就職活動のひとつとしてではなく、文学部生として自身の学びのキャリアについて考える機会とすることを目的としています。
経済学部	キャリアデザイン	2回生	滋賀県中小企業家同友会並びに、草津市、大津市の協力を得て、地域経済のけん引力であり、社会の主役である中小企業代表者の講演を通じて、多様で幅広い働き場、地域社会・企業の課題解決に貢献する意義、企業や社会から求められる人材像などについて学び、大学における勉学やキャリア等の設計、働くこと、働く上での基礎知識をえる。
経済学部	海外インターンシッププログラム	2回生以上	経済学部での専門的な学びを、海外での体験学習を通じて検証する。日ごろ学んでいる専門的学びや学問（あるいは興味関心をもっている専門学問領域）の社会経済的な役割や意義を理解する。学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証することで、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。
経済学部	簿記入門Ⅰ・Ⅱ	1回生以上	簿記入門Ⅰにおいては、金銭の流れ、投資や資産の考え方を中心に、簿記の仕組みの基本を学習し、日商簿記検定3級合格を、簿記入門Ⅱにおいては財務諸表の理解、作成するための簿記の仕組みを学習し、日商簿記検定2級合格の力量を身に付けることを目的とする。経済学部生のキャリア形成の中でも、高度の専門性を求められる分野に関して、「財務・会計プログラム」、「公務・行政プログラム」を設置しており、これらプログラムでの学びにつながる科目である。

## 学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2024年度入学者向けの科目一覧です。

受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。

※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名	配当回生	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学セミナーⅠ	1回生	学部で身につけられる専門性について理解する。基盤科目と各コースの専門科目との関連、インターンシップ、サービラーニングと専門科目との学びについて解説し、その上で3・4回生の専門演習での学びを見据えるためにスポーツ健康科学部専任教員の研究を紹介する。各自が将来のキャリアをイメージしながら、専門科目ならびに専門演習へと進むように導入する。
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学セミナーⅡ	2回生	学士課程を修了した後のキャリアを明確に意識させるために、卒業後の進路・職業域について紹介。専任教員による送り手側の考え方のみでなく、想定される職業域からゲストスピーカーを招聘し、各職業からみた求められる人材像、能力について説明する。学部での教育・研究によって培う客観的理論体系、実践力を身につけるための導入として位置づけている。
スポーツ健康科学部	サービラーニング（専門）	2回生以上	サービラーニングは、企業で行うインターンシップとは異なり、地域でのボランティア活動等を通じて、専門科目で得た疑問等を解決していく科目となる。一定時間以上の地域でのボランティア実習（インターンシップ）と事前・事後学習、そして中間指導を受講する。複数のメンバーで同じ活動を行うこと、また色々な意識を共有することで、専門科目での学習をさらに深めることを到達目標とする。
スポーツ健康科学部	インターンシップ（国内） インターンシップ（海外）	2回生以上	スポーツ健康科学部独自のインターンシップ。国内・海外のスポーツ・健康関連分野の企業等で就業体験（インターンシップ）をすることにより、専門科目を受講する中で得た疑問などを解決していく科目。専門科目で学んだ知識が、実際の社会でどのように役立つのか、また何が本当に必要とされているのかを理解することで、その後の学習を深めていく。
理工学部	特殊講義（基礎専門）Ⅰ （技術者のキャリア）	1回生以上	理工系学生の進路とされるさまざまな業種、職種に携わる講師によるリレー形式の講義。企業等で働かれているゲスト講師から現在の仕事と経歴、学生時代に打ち込んだことなどを紹介いただき、企業での最前線の技術開発の動向や、技術者に求められている資質、採用時に学生に期待されているもの、などについても講義していただく。これらを通じて、学生自身が職業感や職業適性について考え、進路、就職について意志決定するための手がかりを得ることを目的とする
薬学部薬学科	薬学基礎演習	1回生	人間関係や社会、あるいは医療現場におけるコミュニケーションの重要性を認識させることを目的とした授業を行った後に、早期体験学習を実施する。薬剤師の主要な活躍分野として病院、薬局を訪問して薬剤師の業務を直に見聞し、医療における薬剤師の役割の重要性を認識することで、医療人としての意識を高める。また、製薬企業の研究所を訪問して、薬ができるまでのプロセスについての知識を得る。各所において現場の一線で活躍されている方のお話を伺い、薬学部生としての意識を高める。さらに、福祉や介護に関する講義を通じて、思いやりの心や、コミュニケーションの重要性を認識する。
薬学部薬学科	医療薬学実習A	4回生	薬剤師の基本的業務である調剤を中心に関連した薬剤師実務全般を実習する。医療チームにおける薬剤師の役割について学習し、薬剤師の臨床業務について理解する。調剤および調剤薬監査に続き、注射剤・輸液の調剤に関連してTPN等の無菌調製や院内製剤などについて学び、加えて抗がん剤の取扱い全般について実習する。次に、治療薬物モニタリング（TDM）における薬物血中濃度測定と処方設計提案、TDM解析ソフトを用いた投与計画の作成などTDMの実践について実習する。次に、処方設計、処方オーダーリングを行い処方せん全般について学習し、一包化調剤とレセプトおよび医薬品情報の情報源について学習する。続いて、能動的および受動的医薬品情報提供について実習する。次に、毒薬・劇薬、麻薬・抗精神薬等の管理について学び、医薬品全般の管理についても理解を深める。さらに、医療全体としての安全管理についても学習する。

## 学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2024年度入学者向けの科目一覧です。

受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。

※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名	配当回生	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
薬学部薬学科	医療薬学実習B	4回生	医療現場の様々な場面において薬剤師は活躍している。これまでに学んできた薬物に関する知識（薬理作用、副作用、血中動態、臨床適用など）は非常に重要である。しかし実際の医療においては、新たに人とのコミュニケーションという大切な要素が加わり、人とのコミュニケーションを通して薬物に関する知識を生かしていくことになる。医療薬学実習2では、薬剤師になってから実際に経験することになる医療の5つの場面を設定し、小グループ毎に症例に基づいて学習する。薬物治療の実際を学ぶのと同時に、人とのコミュニケーションの仕方をロールプレーも交えて実習する。さらに基本的な身体所見がとれるようになるために、シミュレーションロボット（フィジ子、フィジ夫）や聴診器などの医療器具を使った実習を行う。
薬学部薬学科	実務前実習	4回生	学外実務実習（病院・薬局実習）を行う前に、薬学部内において模擬実習を行い、薬剤師業務全般についての知識、技能及び態度について最低限必要な部分を修得できるようにする。加えて、薬剤師の社会的使命、医療全般の理解と認識、医療現場での心構え・態度、守秘義務等についても理解させる。さらに OSCE にも関連する患者対応、薬剤の調製、調剤鑑査、無菌操作、情報の提供などについて重点的に実習する。
薬学部薬学科	病院実務実習 薬局実務実習	5回生	薬剤師は「医療の担い手」と位置付けられており、薬の専門家として社会に貢献することが期待されています。そのためには医薬品の管理から薬物治療に至るまでの幅広い知識を身に付けた質の高い薬剤師の養成が必要となります。薬学教育6年制では、その第一段階として医療現場における参加型実務実習が義務付けられており、薬剤師としての業務を遂行するための基本的な知識・技能・態度を習得するだけでなく、生命尊重の倫理観を養うことが要求されています。 病院実務実習は5回生時に11週間（55日間）履修することとし、（1）病院調剤を実践する（2）医薬品を動かす・確保する（3）情報を正しく使う（4）ベッドサイドで学ぶ（5）薬剤を造る・調べる（6）医療人としての薬剤師などの（モデル）コアカリキュラムを行います。 薬局実務実習も同様に11週間（55日間）履修することとし、（1）薬局アイテムと管理（2）情報のアクセスと活用（3）薬局調剤を実践する（4）薬局カウンターで学ぶ（5）地域で活躍する薬剤師（6）薬局業務を総合的に学ぶを経験します。
薬学部創薬科学科	創薬科学基礎演習	1回生	人間関係や社会におけるコミュニケーションの重要性を認識することを目的とした授業を行った後に、創薬の意義や問題になっていること、医療全般に関する導入教育を行う。また、テーマ毎に小グループに分かれ、調査・討議を行い、発表を行う。
食マネジメント学部	食科学入門	1回生	食科学の体系を理解するための入門科目です。食の世界で活躍するマネジメント人材には、フードマネジメントを基幹として学びつつ、フードカルチャー科目やフードテクノロジー科目などの幅広い「食科学」の学びが必要です。本科目は、食科学の基礎的な知識を習得するために、経済・経営の知識とフードカルチャー科目やフードテクノロジー科目の知識との結びつきを理解することを目的とします。加えて、本科目の受講を通じて、本学部にふさわしいキャリア形成の基礎能力を身につけましょう。
食マネジメント学部	総合講義 （Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）	1回生以上	総合講義は、学部の学びと現実の社会課題を結びつける科目群です。それぞれの第一線で活躍するゲストの講義を取り入れます。①フードマネジメント、フードカルチャー、フードテクノロジーの3分野の知識を関連付けて理解し、②食に関する社会課題を知り、学部の学びと関連付けて取り組む意欲を育て、③食に関するキャリアを知り、自身のキャリアを考えることを学びます。総合講義Ⅰ（1回生以上。世界の食と経済、日本の食と経済）、総合講義Ⅱ（2回生以上。食ビジネスの現在、食ビジネスの国際展開）、総合講義Ⅲ（3回生以上。地域経営、起業、食とジャーナリズム）の7つの科目があります。

## 学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2024年度入学者向けの科目一覧です。

受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。

※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名	配当回生	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
食マネジメント学部	ガストロノミックスタディプロジェクト（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）	2回生以上	社会の課題を見出し、それを解決するための方法を選択し、実際に解決するための実践力を身につける科目です。企業や団体、自治体など食の現場と連携し、PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）の手法を用いて、課題解決型の学習を行います。学部で学んだ知識を、実践することでさらに深く理解し、自身のキャリアについても考えることができます。ガストロノミックスタディプロジェクトⅠ（2回生以上）、ガストロノミックスタディプロジェクトⅡ（3回生以上）、ガストロノミックスタディプロジェクトⅢ（3回生以上）の3つの科目があり、テーマによってクラスが分かれます。
経営学部	テクニカルビジット	2回生以上	日台の経済・ビジネス関係についての現地調査等を通じて、座学で学んだ理論を実例に置き換えて習得するとともに、現場学習と考察を通じてアジアビジネスにおける学生自身のキャリア形成の動機づけに繋げることを到達目標とする。
経営学部	2022年度以降入学生：経営学特殊講義 2021年度以前入学生：コース特殊講義	2回生以上 3回生以上	様々な業界から講師を招聘し、特殊講義として開講している。いずれも、実務的な観点からそれぞれのテーマについて学びを深めることを目標とする。
経営学部	ビジネス・インターンシップ	3回生以上	この科目は、「ビジネスを発見し、ビジネスを創造する経営学」という経営学部の教学理念の具現化を目指し、2回生までに学んだ経営学の基礎的な理論を、インターンシップ派遣先企業等において実践・検証し、深く理解するとともに3回生以降の発展的な学びにおける課題を発見する機会を得ることを目的とする。
総合心理学部	社会の中の心理学	1回生以上	心理学と社会の関係について学ぶ。授業では、テキストに沿って、心理学史上著名な心理学者2人を毎回とりあげその学説や社会との関係について理解を深める。これが講義の核心となる。また、ほぼ毎回ゲストが登壇してスピーチを行う。受講生は、ゲストのスピーチを聞くことにより、自分自身のキャリア形成（大学での過ごし方、職業選択、大学院進学、留学等）について考えることが求められる。 ゲストは何らかの形で心理学に関係をもつ方々であり、（1）立命館心理出身の社会人、（2）ものづくり企業、東日本大震災被災者、難病患者の方、弁護士など、心理学に期待を持つ外部の方々、（3）コミュニケーション研究、キャリア研究、留学研究の専門家、（4）留学やボランティアなどの経験を語る3、4回生（文学部・総合心理学部）、（5）総合心理学部の教員、である。
総合心理学部	国内フィールドスタディ	2回生以上	インターンシップ（就業体験）やボランティア活動を通して、社会的活動と心理学の関係についての気づきと展望を深める講義です。心理学が社会での有用性を高めるなか、心理学的知見を活用することで問題解決が可能なフィールドも拡大しつつあります。このとき従来の仮説検証型の心理学的方法論だけでは身近な日常的活動に切り込むことは困難であり、また有用で豊かな知見を現場に返すことも難しい場合があります。そこで本講義では様々な社会的活動を行うなかで、現場での関心を心理学的フィールドワークの学びへと意味づけ直すことを通して、実践知を生み出すためのきっかけとその枠組みを学びます。 基本的にはインターンシップ等の現場では、活動先の業務に従事することになります。まずは就業体験やボランティア体験自体を自身のキャリアの中に位置づけることが最も重要です。同時に、総合心理学部での「自らの知識や経験」をどのように現場に活かすことができるのかを考えることもキャリア形成にとって重要になります。
総合心理学部	総合心理学特殊講義Ⅱ	2回生以上	<b>【目的】</b> 心理学の専門知識とスキルを生かしてどのような人生を生きていきたいか、また、一人ひとりが自分らしい人生を送ることができる社会を実現するにはどうしたら良いのかを考え、広い視野で自身と社会の将来について熟慮し、議論する場を提供する。 <b>【概要】</b> ・教員によるキャリア論の講義 ・ゲストスピーカーによる特別講演 ・自ら考え発言する機会の設定

## 学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2024年度入学者向けの科目一覧です。

受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。

※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名	配当回生	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
総合心理学部	キャリア形成論	3回生以上	この授業では、キャリアについて考える。ただし、職業上のキャリアに限定するものではなく、人生におけるさまざまな経験としてライフコース、ライフキャリアにも着目する。講義では、ジェンダー論、社会階層論、社会福祉研究の知見も紹介する。
映像学部	クリエイティブリーダーシップセミナー	2回生	映画監督、演出家、脚本家、ゲームデザイナー、グラフィックデザイナー、コピーライター、あるいは、美術分野や放送分野などリニア、インタラクティブを含む映像関連分野で活躍しているクリエイター、並びに同産業で活躍しているプロデューサーや経営者などを招聘したゲストレクチャーと、キャリア・マネジメント関連講義で構成する。ゲストレクチャーについては、映像業界の第一線で活躍するベテラン（客員教員、訪問教員およびそれに準ずる講師）を講師としたリーダーシップ・セミナーと、映像業界でキャリアを積み始めて5年～10年程度の若手社会人または人事担当者によるキャリア創生・セミナーという二階層の講義構造となる。
映像学部	学外映像研修	2回生以上	映像学部教学と関連性の高い企業・団体でのインターンシップ研修を通して、映画・映像とその文化、技術の創造に関する、現場での実践知、技量、主体性を体得する。受入機関における実務研修や調査では、専門領域についての視野や知識を広げるとともに、具体的な仕事のイメージを持ち、自己の職業適性や将来設計等について深く考えることが求められる。
映像学部	社会連携プログラム	2回生以上	学外機関と連携し、具体的な目標と予算に基づいて企画を実行することで、調査研究力、実践力ならびにマネジメント能力を醸成する。2023年度実績：「京都国際マンガアニメフェア」「京都映画企画市（ヒストリカ国際映画祭）」「京都伝統産業ミュージアム」「京都市交通局」「株式会社松竹撮影所」「BitSummit」など
映像学部	特殊講義（専門Ⅰ～Ⅴ）	1回生以上	特殊講義として毎年テーマを変えて複数クラス開講される。2023年度実施内容（予定）：「ジャパンコンテンツの先端と悠久」「映画制作論」など
情報理工学部	特殊講義（共通専門） 問題解決実践	1回生	PBL（Project Based Learning）の形態で行う。前半と後半に分け、2社の企業と連携し、企業から提示された課題についてグループで討議を進め、解決策を提示して企業に評価していただく。企業が直面している現実の課題に向き合い、グループ討議で提示した解決策に関して現場の立場から厳しくコメントしていただく貴重な機会である。社会に活躍できる人材として必要な基礎力を身につける。
情報理工学部	連携講座	1回生・2回生	企業等から講師を招き、大学で学ぶ学問が社会の中でどのように応用されているかを理解することでIT社会に対する視野を広げる。同時に、産業界における技術者の生の声を聞くことで、キャリア形成への意識を高める。
情報理工学部	海外IT研修プログラム	1～3回生	高い英語運用能力を持ち合わせているだけでなく、グローバルな視点から多面的に物事を捉える能力は、国際的に活躍する技術者・研究者にとって必要不可欠なものとなっている。海外大学での研修を中心とする本プログラムは、英語の集中学習とITに関する講義、他国からの留学生との交流やホームステイ滞在を特徴とし、生活から学習に至るまで全てを英語で行うことを通して、個々にあった英語運用能力の向上と異文化適応能力を養う。
情報理工学部	日本語表現技術	1回生	本科目は、日本語の運用能力を向上させるために、おもに書くための技術を学ぶ。文章に関するさまざまな課題に取り組むことで、論理的な文章の構成や形式を基礎から学び、説得力のある文章を執筆するための技能を習得する。さらに、書くことを起点として言語能力全般を支える思考力の向上を目指す。また、表現のヒントとなるさまざまな事象や、形式や体裁を整えるために必要な文化的側面も学ぶ。
情報理工学部	情報と職業	1回生	21世紀に入り、経済や社会が大きく変化し、情報化・国際化が進んでいる。これに伴い職業に関する環境や考え方が変容している。コンピュータや通信技術の発達に伴う職業観や勤労観、倫理も同時に変化しつつある。本科目では、情報に関する職業人としての在り方、職業観や勤労観、倫理の視点と、情報化の進展に伴う職業の変革の視点の両者から情報と職業の関わりについて学ぶ。

## 学部の専門分野での学びを通じてキャリアを考える（授業科目）

※以下は2024年度入学者向けの科目一覧です。

受講可否については、所属学部の「学修要覧」、「履修・登録の手引き」で確認してください。

※科目概要の詳細は「シラバス」を確認してください。

対象学部	科目名	配当回生	科目の概要 ※詳細は「シラバス」を確認してください
情報理工学部	技術経営概論	2回生	技術の発展が人間社会を豊かにしてきた。広い意味での技術を経営に如何に生かせば良いのか、また付加価値の高い経営に有効活用するにはどう対応したら良いのかなどを多面的に考え、技術経営の概要を創造的に深く理解する。各種産業に参画していく若人が、経営の広い範囲でリーダーシップを発揮できるように、技術経営の基本的な知識をより実践的に身に付けていく。
情報理工学部	技術経営特論	2回生	企業が持続的に発展、成長するためには、企業を取り巻く環境に適応しつつ競争優位を獲得し、維持することが必須となる。本コースは技術経営の入門講座として、企業が競争優位を獲得・維持するために、技術を基盤とし技術開発とイノベーション創出を重視する企業が直面する幅広い戦略的課題を取り上げ、解説する。技術経営の幅広い基礎知識や戦略的にものごとをみる視点を学ぶ
情報理工学部	イノベーション論	2回生	イノベーションは、顧客に今までにない価値をもたらし、新規需要を創出する。イノベーションは生活を一変するだけではなく、企業や経済が成長するために重要な役割を果たす。イノベーションの概要を把握、実践的に理解することを目的とする。各種産業に参画していく若人が、経営の広い範囲でリーダーシップを発揮できるように、イノベーションの基本的な知識をより実践的に身に付けていく。
情報理工学部	ファイナンス入門	2回生	社会人必須のファイナンス知識を習得する。 技術系学生も社会人となれば事業計画、業績管理、経営の意思決定など多くの局面で、ファイナンスの知識が必要となる。よって、本講義において当該科目の基礎知識を習得することとする。
情報理工学部	グローバルインターンシップ	2回生	本科目は、学部専門科目で培った専門知識をいかしながら、日系IT企業や現地IT企業でインターンシップに取り組むことによって専門性を深めるとともに、卒業研究に必要な自主性や計画性を養う。また、実社会での就業体験を通じて、コミュニケーション能力、チームワーク力、異文化理解力などの社会人基礎力も養成する。さらに、現地での生活・安全管理等に関する事前研修と、研修成果を発表する事後研修を実施する。
情報理工学部	情報技術実践 1	2回生	IT技術者として活躍するために、様々な職種で共通して必要とされる知識や関係するスキルを身につける。情報理工学部の共通専門科目で学ぶ内容を、体系付けられた知識・スキルとしての確に身につけることを目的とし、最終的には、専門性の高い情報処理技術者を目指す第1ステップと位置づけられる「基本情報技術者試験」への合格レベルを目指す。
情報理工学部	情報技術実践 2	2回生	
情報理工学部	情報技術実践 3	3回生	情報理工学部の共通専門科目や学科専門科目で学ぶ内容を、体系付けられた知識・スキルとしての確に身につけることを目的とし、最終的には、高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立していることを問う「応用情報技術者試験」の合格レベルを目指す。
情報理工学部	技術の事業化構想入門	3回生	技術を事業化するために必要な最低限の知識とスキルを修得することを目的として、デザイン思考(Design Thinking)とシステムズ・エンジニアリング(Systems Engineering:SE)、経営管理学 (Management of Business Administration: MBA) を組み合わせた講義を行う。
情報理工学部	ITを活用した業務改革入門	3回生	現代の企業経営にとってITは不可欠な存在である。経営情報論に立脚し、ITを使う側のユーザー企業や産業社会、およびITを作る側のベンダー企業や情報サービス産業といった複眼的な視点から、ITを企業経営や業務改革に有効に利活用するための様々な課題に接近する。多くの学生が就職する情報サービス産業の構造およびIT企業の現状についても議論する。通常の講義に加え、ケーススタディ、演習、学生による発表やゲスト講師の講演を交えて、理論と実践の融合を図ったインタラクティブな授業とする。